

1. 地区の概況

【位置】
市の北西端に位置し、北及び西を船橋市に接する。

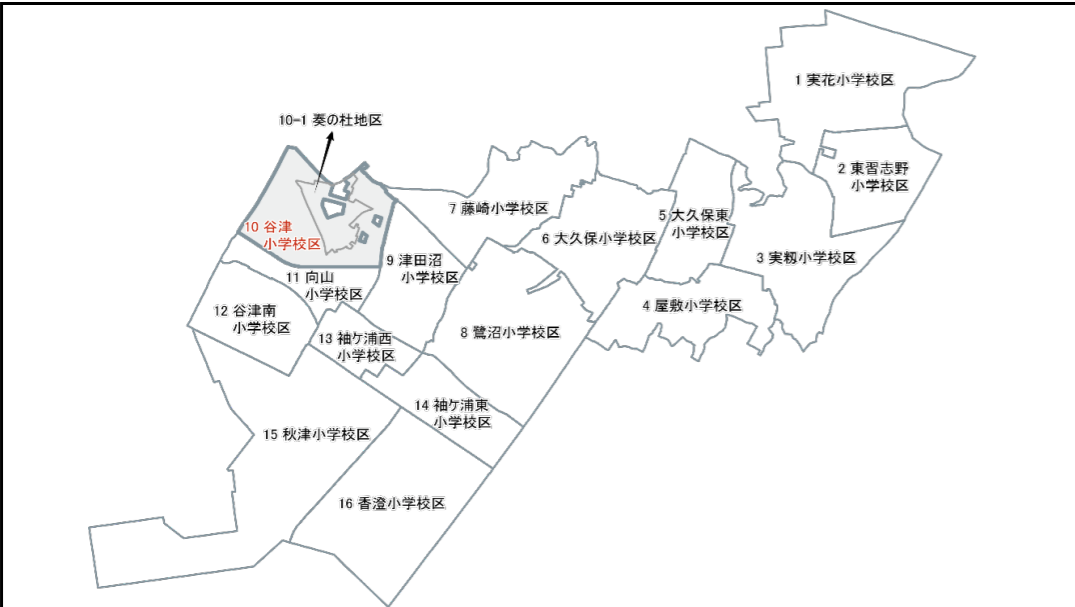
【地形・地勢】
地区一帯は、北部の段丘と南部の砂州・砂丘に形成されている。南部は、昭和期に埋め立てられる以前は谷津海岸に面しており、海水浴客で賑わったほか、京成本線谷津駅周辺は谷津公園（旧谷津遊園）の最寄り駅として発展した。谷津駅北側の谷津5丁目は、畑地を徐々に宅地開発した結果、木造住宅の密集地域となっており狭隘道路も多い。
一方、JR津田沼駅南口周辺地区（谷津1・6・7丁目の各一部にまたがる広大な造成地）では、かつての軍関連施設跡地を転用し、商業・業務・住宅・集合農地等の複合的な土地利用を計画的に誘導することで、市の玄関口として、JR津田沼駅前にふさわしいまちづくりを行うための大規模な土地整理事業が進められている。本事業の施行により、都市の骨格となる都市計画道路の整備、緑を確保した歩行空間のネットワーク、防災機能を有した近隣公園、景観・防災に配慮した電線類の地中化など、都市基盤施設の整備が計画的に行われている。

【交通】
地区北側の市境にはJR総武本線が走り、船橋市及び津田沼小学校区、藤崎小学校区との境界部にJR津田沼駅が立地する。JR津田沼駅の1日の平均乗車人員は79,799人になる。JR総武本線と交差して成田街道（国道296号）が走る。
地区の南側には向山小学校区との境界に沿って京成本線が走り、谷津駅が立地する。同駅の1日の平均乗降人員は、8,968人である。谷津駅までは京成本線と並行して千葉街道（国道14号）が走る。

【人口・建物等】
人口・世帯数ともに市平均より高い。老年人口（65歳以上の人口）の割合は14.1%であり、16地区中で最も老年人口の割合が低い。
建物密集度は市の平均よりもやや大きく、昭和55年以前の建物の割合は20.8%と、市平均を下回る。

【地区内の施設等】
第一避難所及び一時避難場所として、谷津小学校と第一中学校が指定されている。また、谷津奏の杜公園が一時避難場所に指定されている。補助避難所として、谷津幼稚園、谷津コミュニティセンターが指定されている。なお、地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。
第一中学校と谷津小学校に防災倉庫が設置されており、谷津奏の杜公園は非常用給水施設となっている。また、病院・診療所は19あり、「津田沼中央総合病院」は救急告示病院である。

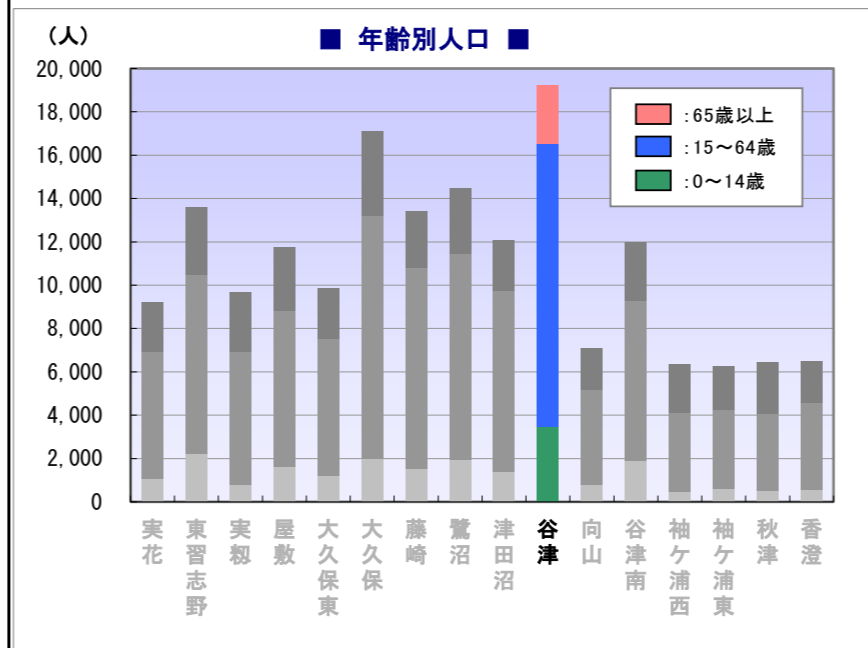
2. 位置図



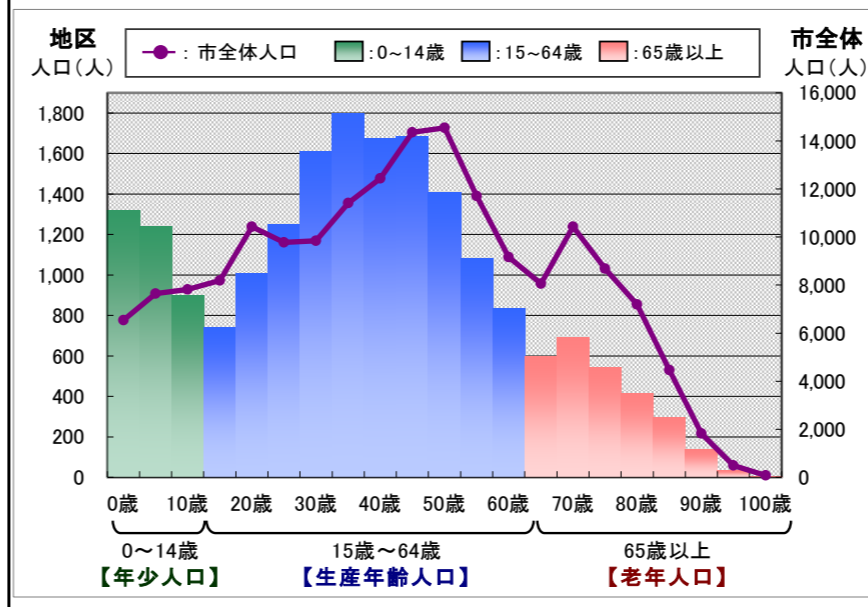
3. 基本指標

	地区内	市全域
人口	19,258 人	175,065 人
(内訳)	-	-
0歳～14歳	3,458 人	21,998 人
15歳～64歳	13,086 人	111,846 人
65歳～	2,714 人	41,221 人
老年人口割合	14.1 %	23.5 %
世帯数	8,527 世帯	83,137 世帯
世帯当り人口	2.26 人	2.11 人
地区面積	1.21 km ²	20.96 km ²
人口密度	15,957 人/km ²	8,351 人/km ²

<年齢別人口（他地区との比較）>



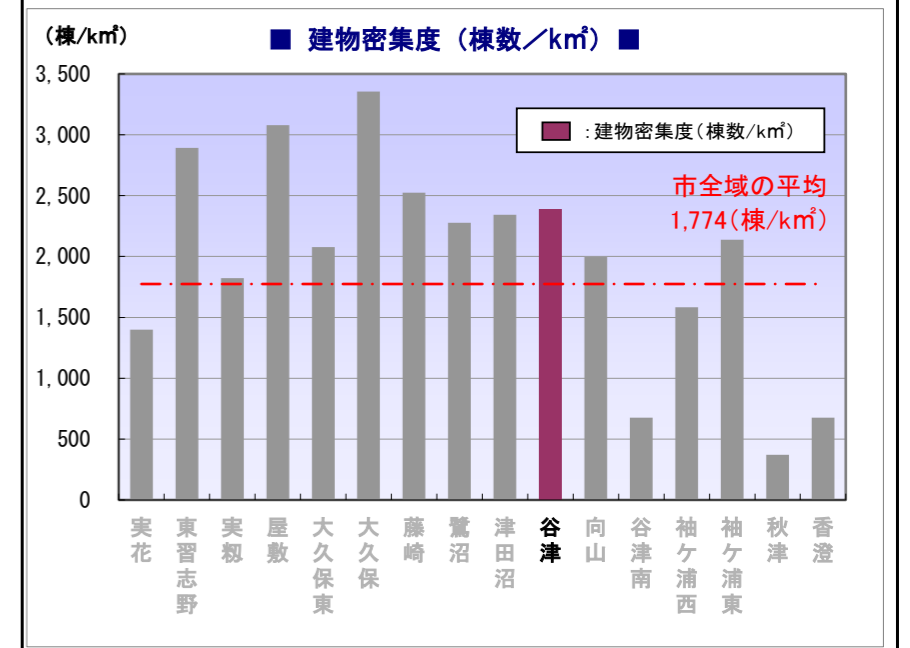
<年齢別人口分布>



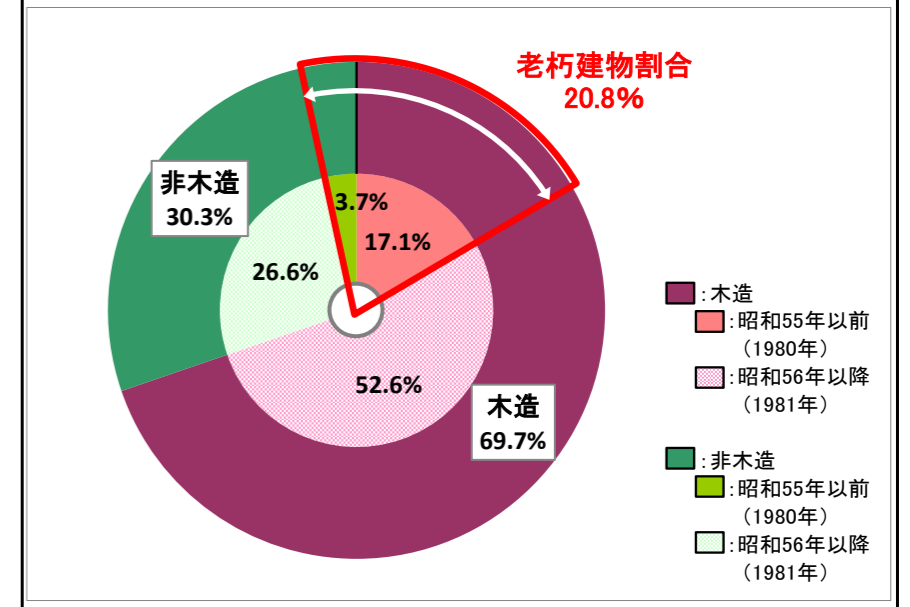
4. 建物指標

	構造	建築年	地区内	市全域
構造・建築年別建物棟数	木造	～昭和55年	492 棟	7,520 棟
		昭和56年～	1,516 棟	19,915 棟
		小計	2,008 棟	27,435 棟
	非木造	～昭和55年	106 棟	1,708 棟
		昭和56年～	766 棟	8,052 棟
		小計	871 棟	9,760 棟
合計			2,879 棟	37,195 棟
建物密集度			2,386 棟/km ²	1,774 棟/km ²
老朽建物割合			20.8 %	24.8 %

<建物密集度（他地区との比較）>



<建物比率>



5. 地区対策支部

設置場所	住所	設置予定場所
谷津小学校	谷津5丁目1番32号	本校舎 2 F ミーティング室

6. 避難施設

種類	施設名称	屋外面積 (㎡)	屋外収容人員(人)	屋内面積 (㎡)	屋内収容人員(約人)
一時避難場所 (グラウンド等)	谷津小学校	13,032㎡	13,032人		
	第一中学校	31,000㎡	31,000人		
	谷津奏の杜公園	22,000㎡	22,000人		
第一避難所 (体育館等)	谷津小学校			758㎡	450人
	第一中学校			1,634㎡	990人
補助避難所	谷津幼稚園			1,026㎡	620人
	谷津コミュニティセンター			927㎡	560人
福祉避難所	なし				

※ 一時避難場所は敷地面積すべてを記載しています。

7. 高齢者福祉施設

施設名	施設名
愛の家グループホーム習志野奏の杜	
愛・グループホーム奏の杜	
愛・小規模多機能奏の杜	
デイサービスぽっかぽか	
谷津地域福祉事業所デイサービスひだまり	
脳が元気になるデイサービスかなで	

8. 防災倉庫・非常用給水施設・AED設置場所

種類	施設名	住所
防災倉庫	第一中学校	奏の杜1丁目13番1号
防災倉庫	谷津小学校	谷津5丁目1番32号
給水施設	谷津奏の杜公園	奏の杜2丁目12番
AED設置場所	第一中学校	奏の杜1丁目13番1号
AED設置場所	谷津小学校	谷津5丁目1番32号
AED設置場所	谷津コミュニティセンター	谷津5丁目16番33号
AED設置場所	谷津幼稚園	谷津5丁目1番17号
AED設置場所	きらっ子ルームやつ	谷津5丁目5番3号ステージエイト1階
AED設置場所	谷津奏の杜出張所	奏の杜2丁目13番1号

9. 消防・警察・医療機関

種類	施設名
消防署・出張所 【消防団】	消防本部中央消防署谷津奏の杜出張所
	なし
警察・交番	津田沼駅前交番
病院・診療所 (下記)	
ファミリー産院つだぬま	津田沼耳鼻科クリニック
あそう眼科	津田沼すぎむらクリニック
尾高内科・胃腸クリニック	津田沼中央総合病院
奏の杜さとう小児科	津田沼南クリニック
奏の杜耳鼻咽喉科	中嶋医院
千葉いびき・無呼吸クリニック	マイ形成外科スキンクリニック
奏の杜整形外科	まきた内科医院
こいずみクリニック	みつかリウマチクリニック
こころの杜クリニック	みんなの皮ふ科・形成外科津田沼
さきたに内科・内視鏡クリニック	メディカルスクエア奏の杜クリニック

10. 自主防災組織

組織数	加入世帯数
27	7,155

11. その他防災施設

種類	地区内	習志野市全域
防災行政無線 (スピーカー)	4 箇所	49 箇所
ヘリポート 臨時離発着場	0 箇所	13 箇所
消防水利	235 箇所	2,191 箇所

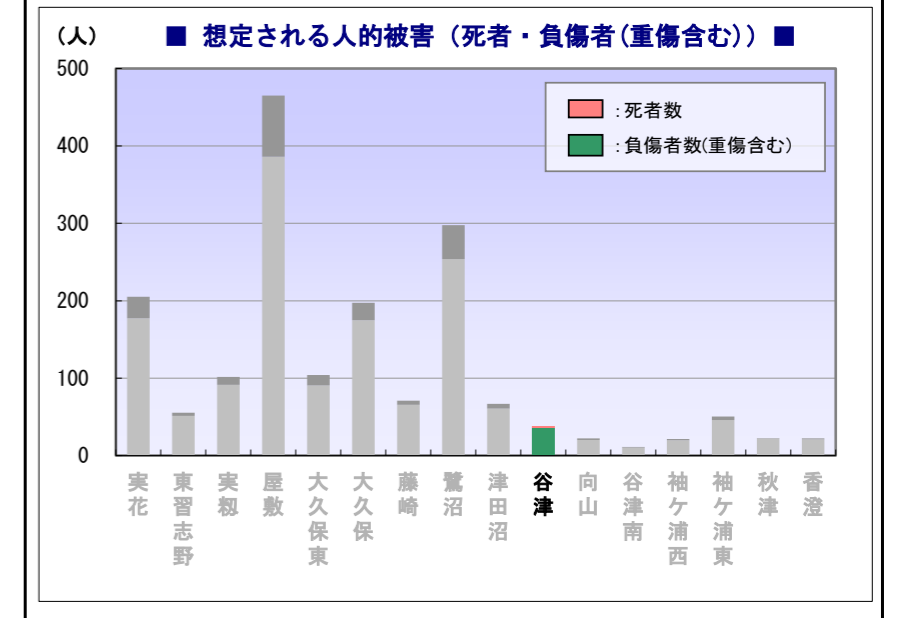
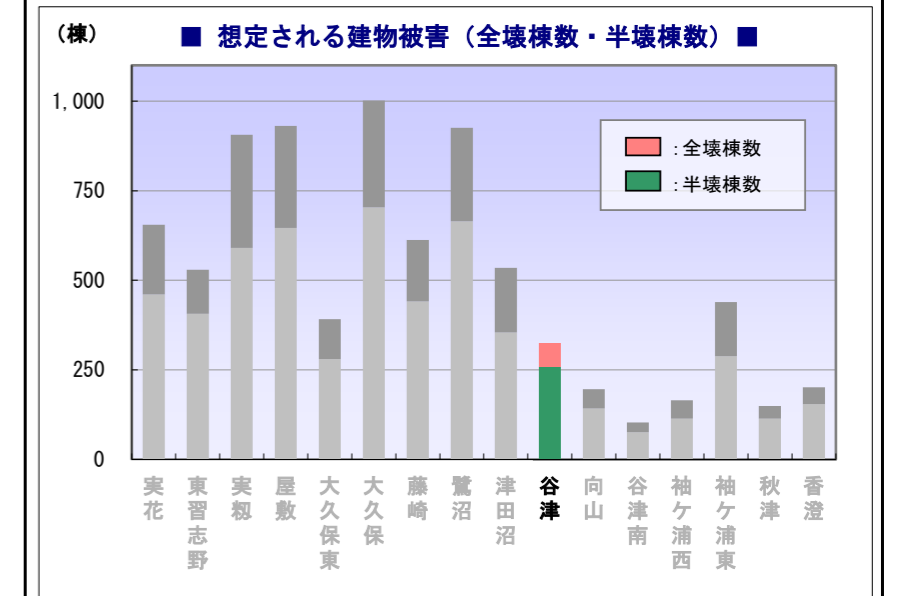
12. 土砂災害

種類	地区内	習志野市全域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	34 箇所
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	36 箇所
急傾斜地崩壊危険区域	0 箇所	5 箇所

13. 各種災害被害想定結果

被害想定項目	被害数値 (当該地区)	被害数値 (市全域)
建物被害【全壊】(棟)	67棟	2,371棟
建物被害【半壊】(棟)	258棟	5,697棟
建物全半壊率(%)	11.3%	21.7%
火災被害【焼失棟数】(棟)	0棟	2,756棟
死者(人)	2人	226人
負傷者【重傷含む】(人)	35人	1,527人
避難所生活者数(人)	1,912人	28,628人
河川はん濫影響建物棟数(棟)	0棟	5,532棟
内水はん濫影響建物棟数(棟)	41棟	6,975棟

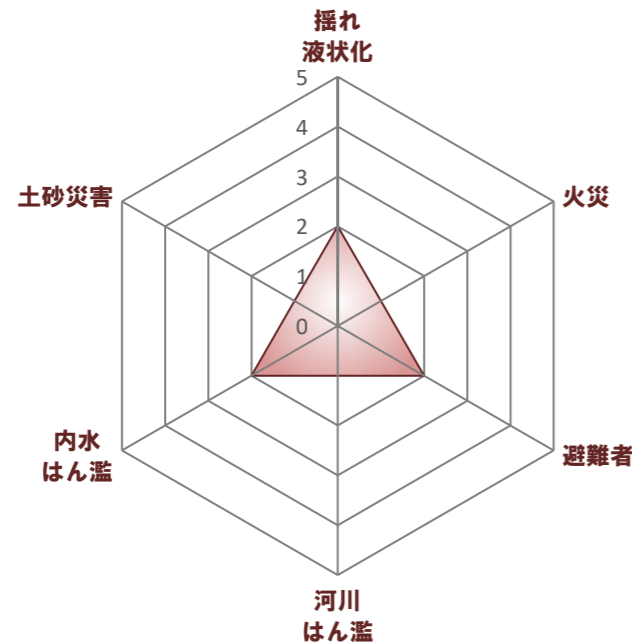
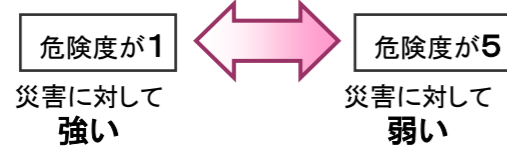
※ 地震被害の想定地震は、「千葉県北西部直下地震(M7.3)」です。



14. 各種災害の評価

評価項目		数値	危険度
地震災害	揺れ・液状化	揺れ・液状化による建物全半壊率(%) ※全半壊棟数/地区内の建物の総数	11.3% 2
	火災	火災・延焼による焼失率(%) ※焼失棟数/地区内の建物の総数	0.0% 1
	避難者	避難人口率(%) ※避難所生活者数/地区の総人口	9.9% 2
風水害	河川はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	0棟 1
	内水はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	41棟 2
	土砂災害	土砂災害の影響を受ける可能性のある建物棟数(棟)	0棟 1

＜地区の災害に対する強さ＞



＜表・グラフの見方＞

被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目ごとに地区の災害特性を5段階の危険度で表したものです。「5」が最も災害の危険度が高いことを表しています。したがって、グラフの六角形の面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。

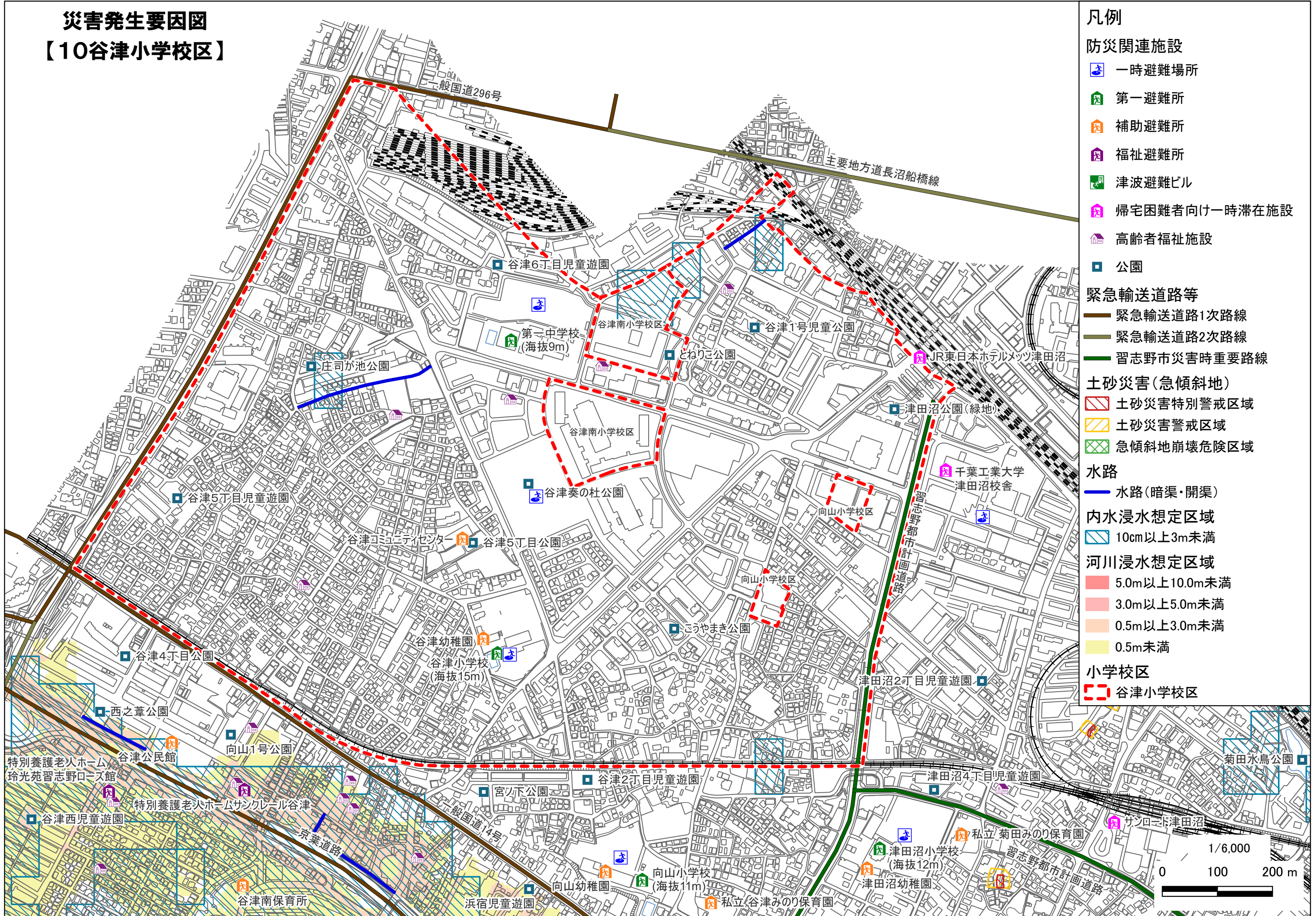
15. 地区の災害特性

問題点	内容
地震災害	<input type="checkbox"/> 揺れ・液状化による被害 千葉県北西部直下地震（M7.3）が発生した場合、震度6弱～震度6強の揺れと予測される。谷津5丁目と谷津6丁目の大部分は震度6弱の予測であるが、谷津5丁目の一部に液状化が発生する可能性が高い区域がある。 建物全半壊率は11.3%だが、谷津5丁目は建物が密集しており、建物の被害が多く発生すると予測される。
	<input type="checkbox"/> 火災による被害 地震火災による焼失は予測されておらず、焼失率は0%である。予測される建物焼失率は低いものの、谷津5丁目は建物が密集して建っており、延焼による被害の警戒が必要である。
	<input type="checkbox"/> 避難環境 予測される避難所生活者数は地区内の9.9%にあたる1,912人である。 また、本地区は船橋市と隣接しており、災害時には本地区の避難施設に市域を越えて避難してくることが予想され、避難所等の対応に支障をきたす可能性がある。
風水害 土砂災害	<input type="checkbox"/> 河川はん濫 当該地区においては河川はん濫の想定はないため、河川はん濫に対する危険性は低い地区である。
	<input type="checkbox"/> 内水はん濫 内水はん濫により、浸水する可能性がある建物棟数は41棟と予測される。谷津6丁目と奏の杜1丁目の一部が主な浸水想定区域であり、想定浸水深は10cm～50cmである。
	<input type="checkbox"/> 土砂災害 当該地区においては、土砂災害警戒区域・特別警戒区域が指定されていないため、土砂災害に対する危険性は低い地区である。
避難環境	<input type="checkbox"/> 一時避難場所 一時避難場所として、谷津小学校と第一中学校、谷津奏の杜公園が指定されている。 <input type="checkbox"/> 第一避難所 第一避難所として、谷津小学校と第一中学校が指定されている。 <input type="checkbox"/> 補助避難所 補助避難所として、谷津幼稚園、谷津コミュニティセンターが指定されている。 <input type="checkbox"/> 福祉避難所 地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。
防災施設関係	<input type="checkbox"/> 防災倉庫 地区内には防災倉庫が谷津小学校と第一中学校に設置されている。 <input type="checkbox"/> 非常用給水施設 非常用給水施設が谷津奏の杜公園に設置されている。
その他	地区内にあるJR津田沼駅は利用者数が多く、帰宅困難者が多く発生する可能性がある。

16. 防災対策の方向性

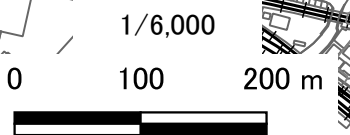
防災対策の方向性	
既存建築物の耐震性の確保	■家屋の安全対策実施の促進 昭和55年以前の建築物の耐震診断・耐震補強等を促進する施策を積極的に実施する。特に、不特定多数の人が利用する施設、学校、行政関連施設等の応急対策上重要な施設、要配慮者利用施設、病院施設等について、耐震性の確保に配慮する。 また、耐震診断と耐震改修工事等に関する補助金制度や、簡易耐震診断、家具の固定等の安全対策について、住民に周知・啓発する。
液状化対策の推進	■ライフライン施設の強化 地盤の改良や施設の耐震化・液状化対策により、地震・液状化に強いライフラインづくりを推進する。 ■応急対応体制の整備 ライフライン被害に対し、迅速に応急復旧に取りかかれるよう体制を整備する。市民生活を保持できるよう、トイレや飲料水等の応急対策について強化・推進する。 ■住民への知識普及・啓発 液状化に関する正しい情報を呼びかけ、住民の防災意識を高揚する。
火災・延焼防止対策の推進	■初期消火についての周知徹底 家庭での初期消火の徹底を図るため、消火器具の設置を促進する。また、住民や地域に対して初期消火に関する知識、技術の普及を図るため、防災訓練を積極的に実施する。 ■危険物施設の安全確保 消防法に定められた危険物取扱施設（貯蔵所・取扱所）の耐震性を確保する。 ■防災空間の整備 延焼拡大を未然に防ぐため、建築物の不燃化を図る。また、火災の延焼防止や一時的な避難場所として重要な役割を担う緑地・都市公園を計画的に整備する。
避難拠点の整備	■避難所・避難場所の確保 災害時における要配慮者や女性の避難生活に配慮し、避難所等への計画的な備蓄や必要な物品の確保など、避難所の生活環境対策を推進する。
避難体制の整備	■帰宅困難者対策 JR津田沼駅周辺では多数の帰宅困難者の発生が予測されるため、防災関係機関や駅周辺の民間事業者等と連携し、情報提供等の必要な支援や一時的に滞在する施設への誘導等を行う。 ■避難支援体制の整備 地区の北部と南部で高低差があり、特に災害時における要配慮者の避難が困難なことが予測される。地域が一体となった避難支援体制の整備を推進する。 ■防災・減災意識の高揚 り災者を抑制するために住宅の耐震化が重要であることを住民に教育・啓発し、防災・減災意識の高揚を図る。 また、ライフラインの途絶等に備え、家庭での水・食料や簡易トイレ等の備蓄を促進する。
河川はん濫・内水はん濫対策の推進	■住民への知識普及・啓発 河川はん濫・内水はん濫の危険性を事前に把握できるよう、ハザードマップ等を活用した知識の普及・啓発を図る。 ■気象情報等の発信体制の強化 大雨等の気象情報、避難情報や警戒レベル等を、状況に応じて有効な伝達方法で、迅速かつ的確に発信できるよう体制を検討する。
土砂災害に対する警戒・避難体制の整備	■住民への知識普及・啓発 土砂災害が発生する危険性がある地域住民に対し、土砂災害の危険性を認識し、早めの自主避難が行えるよう知識の普及・啓発を図る。 ■土砂災害に対する警戒・早期避難体制の整備 降雨時の気象情報等を把握し、早期の警戒活動や避難情報を判断する体制を整備する。
その他	■自主防災組織活動の促進 防災活動を行うに当たり、住民が地域ごとに団結し、組織的に行動することによってその効果が最大限に発揮できることから、自主防災組織活動を促進する。

災害発生要因図 【10谷津小学校区】



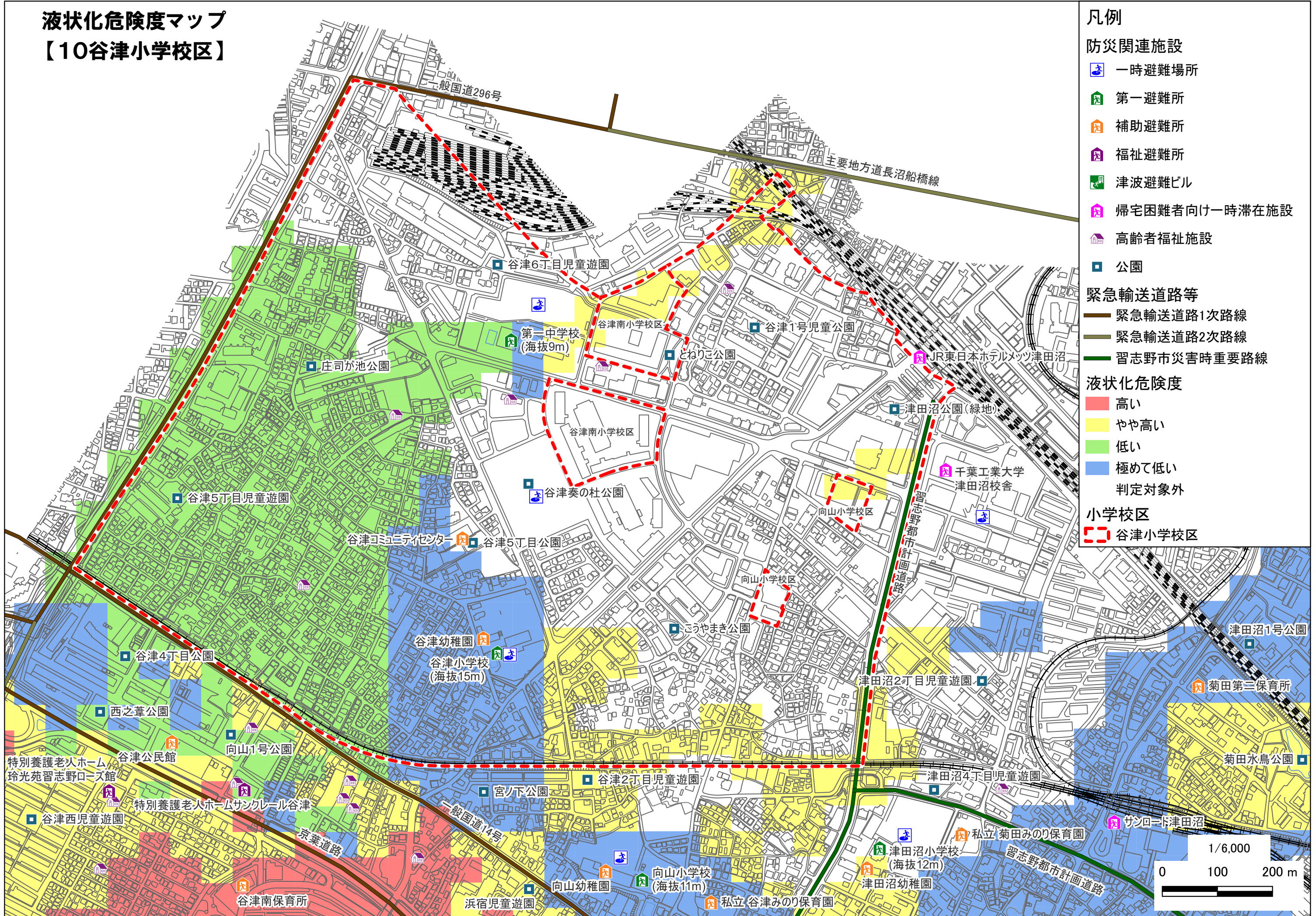
凡例

- 防災関連施設**
- 一時避難場所
 - 第一避難所
 - 補助避難所
 - 福祉避難所
 - 津波避難ビル
 - 帰宅困難者向け一時滞在施設
 - 高齢者福祉施設
 - 公園
- 緊急輸送道路等**
- 緊急輸送道路1次路線
 - 緊急輸送道路2次路線
 - 習志野市災害時重要路線
- 土砂災害(急傾斜地)**
- 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 急傾斜地崩壊危険区域
- 水路**
- 水路(暗渠・開渠)
- 内水浸水想定区域**
- 10cm以上3m未満
- 河川浸水想定区域**
- 5.0m以上10.0m未満
 - 3.0m以上5.0m未満
 - 0.5m以上3.0m未満
 - 0.5m未満
- 小学校区**
- 谷津小学校区



液状化危険度マップ

【10谷津小学校区】



凡例

防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園

緊急輸送道路等

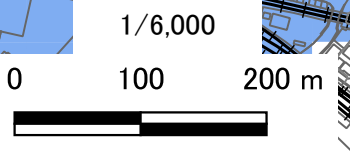
- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線

液状化危険度

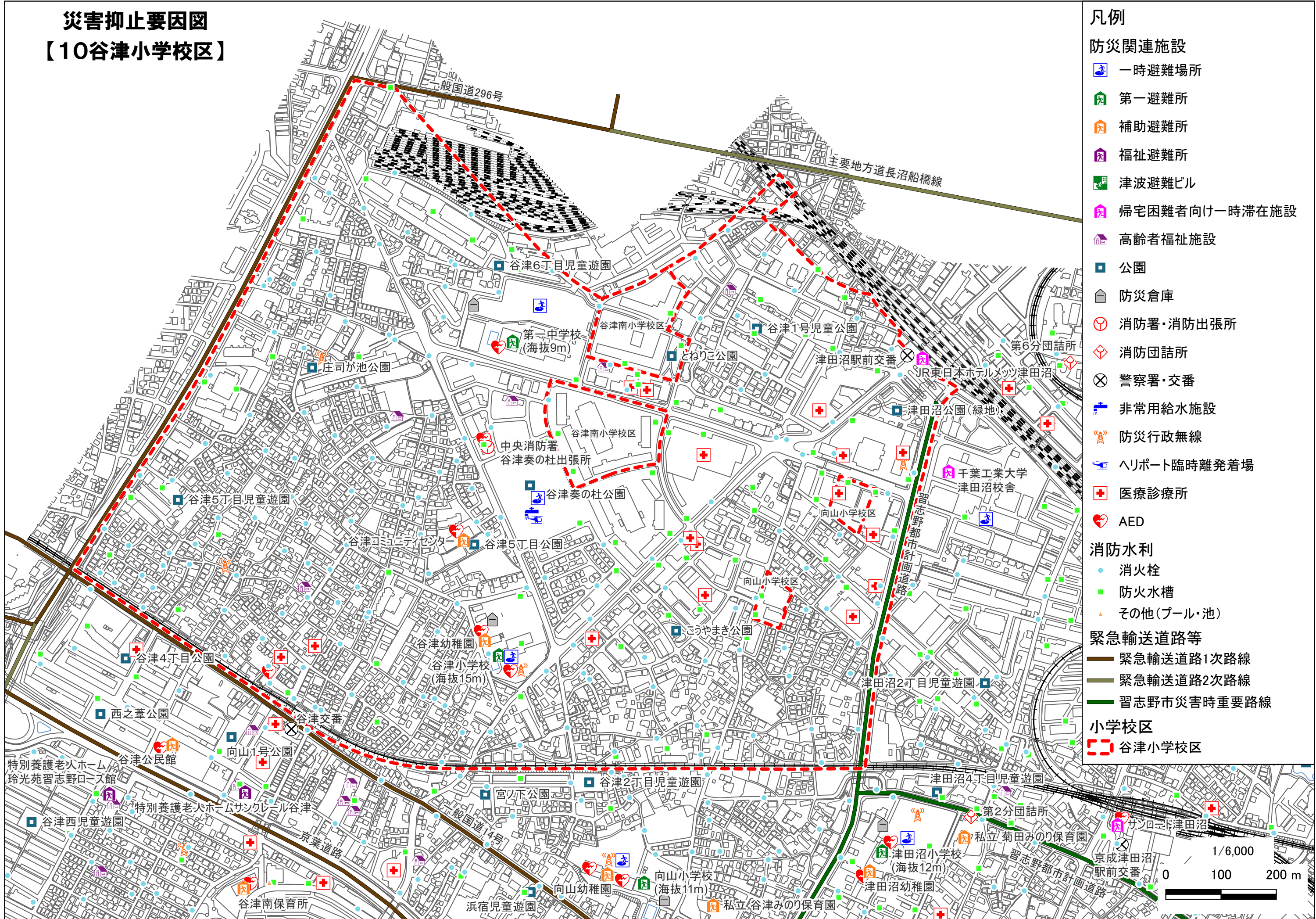
- 高い
- やや高い
- 低い
- 極めて低い
- 判定対象外

小学校区

- 谷津小学校区



災害抑止要因図 【10谷津小学校区】



凡例

防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園
- 防災倉庫
- 消防署・消防出張所
- 消防団詰所
- 警察署・交番
- 非常用給水施設
- 防災行政無線
- ヘリポート臨時離発着場
- 医療診療所
- AED

消防水利

- 消火栓
- 防火水槽
- その他(プール・池)

緊急輸送道路等

- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線

小学校区

- 谷津小学校区

